

令和2年度 第二回白根飯野小学校学校関係者評価書

学校関係者評価委員会

- 1 日時 令和3年1月22日（金）午後7時00分
- 2 場所 白根飯野小学校 図書室
- 3 出席者 ○学校関係者評価委員
飯野 久（学校評議員・南アルプス市議会議長）
飯田哲夫（元校長・学校評議員）
伊東政仁（飯野地区自治会長）
○学校代表
岡こずえ（校長） 窪田正幸（教頭） 深澤和博（教務主任）
- 4 欠席者 市川和郎（元校長・学校評議員）
杉町智元（学校評議員・PTA 会長）
中嶋義幸（飯丘地区自治会長）
- 5 内容及び次第 進行：深澤教務主任

I 次第

- 1 始めの言葉
 - 2 学校長挨拶
 - 3 自己紹介
 - 4 議事
 - ① 2学期末の学校評価（教職員・保護者・児童）の集計結果の報告
 - ・自己評価について 提案者：教頭
 - ・保護者アンケートについて 提案者：教頭
 - ・児童アンケートについて 提案者：教務主任
 - * 上記資料は別紙参照
 - ② 意見交換
 - 5 終わりの言葉
-

II 学校関係者評価委員会報告概要

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者・児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えている。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断した。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

【2】全体的な傾向

教職員による自己評価、児童・保護者によるアンケートを通じて、3者ともに、ほとんどの項目でA B評価の合計が80%を大きく超えている。各アンケートの全体平均においては、教職員（前期比5%増：96%）、児童（前期比1%増：平均91%）、保護者（前期比増減なし：平均95%）と、90%を超える肯定的評価を得ている。

一方、C D評価の合計が20%を超えたものが、自己評価において前期には5項目あったが、後期は1つもなかった。また、児童についても同様に、前期は1項目あったが、後期は1つもなかった。保護者については、前期後期ともに、否定的評価がなかった。

学校生活全般についての調査項目（以下の①②）では、ともにA B評価の合計が95%を超え、前期よりもさらに高評価となった。これらのことから、現在の本校は、概ね『満足できる状況』にあると判断できる。

①児童：学校は楽しいですか。（前期比2%増：96%）

学校で一緒に遊んだり、おしゃべりをしたりする友達はいますか。
（前期比2%増：97%）

②保護者：子どもは、白根飯野小学校に楽しく通学している。

（前期比1%増：98%）

子どもは仲間と協力し、行事や活動に粘り強く取り組んでいる。

（前期比1%増：98%）

【3】個別の分析

(1) 「確かな学力」について

教職員が前期に比べてその成果を高く評価したものは、『②多様な考えを大切にした対話的な学習の創造(前期比 19%増 90%)』『③ペア学習, グループ学習の保障と言語活動の充実(前期比 59%増 90%)』であった。前期は、臨時休業による学習の遅れを取り戻す必要があったこと、また、感染防止のため、対話的な学習活動の制限もあったことなどから評価が低くなっていたが、後期は、感染症対策を施しながらも児童同士の協働的な学びを多く取り入れる工夫をしたことが高評価につながったと考えられる。

一方、家庭学習における評価において、自己評価では『④学校から家庭に発展する学習の工夫(前期比 32%増 100%)』と肯定率が高かったが、保護者評価においては、『④宿題や自主学習・読書など家庭学習の習慣の定着(前期比増減なし 84%)』と、他の項目と比較して若干低くなっている。「うちがくがんばり週間」を1週間の期間で設定し、学年便りで保護者にも協力を呼びかける取組を行ってきたが、引き続き家庭と連携しながら進めていく必要がある。県教育委員会で示している「学びの甲斐善8か条」の啓発も行いながら、「学校から家庭に発展する学習の工夫」についても考えていきたい。

また、自己評価の『①生き生きとした学習の創造(前期比 5%増 95%)』『⑤職員同士の学び合いによる指導力の向上(前期比 14%増 100%)』からもわかるように、校内研究に関わる研究授業や一人1実践の実施により、お互いの授業から学びあうことができ、教師の指導力向上と授業改善、ひいては子どもたちの確かな学力の向上につなげることができた。「教師は授業で勝負する」の言葉通り、今後も子どもたちに「わかる授業」を行っていきけるよう、不断の努力を行っていきたい。

保護者コメント

△うちの子どもは女の子なのですが、工作の授業の時にロケットを作ったのですが、担任の先生ではない先生に「〇〇さんは似合わない。」と言われ、本人が傷ついたと言っていました。今後は気を付けて発言をお願いしたいと思います。

●対策

子どもたちの個性を認め、伸ばさせていく立場にいる教師が、主観に基づいた発言で子どもの心を傷つけるようなことはあってはならないことです。教師の何気ない一言が、子どもたちの意欲やその後の成長に大きな影響を与えるとすることを改めて肝に銘じ、日々の教育活動にあたっていきます。

△コロナで休校になった時に困らないように、対策をお願いします(オンライン授業など)

●対策

市教委と相談しながら検討していきたいと思えます。

(2) 「豊かな心」について

教職員が前期に比べてその成果を高く評価したものは、『③相手の立場に立って考える子どもの育成(前期比 9%増 95%)』『⑥読書・文化芸術体験を通した心の育成(前期比 11%増 95%)』『好感を与える所作や言動の定着, あいさつの習慣化(前期比 24%増 91%)』である。今年度は, 開催できなかった児童発表会に代わりに音楽鑑賞会を実施し, 今まで見たことのなかった外国の民族楽器による演奏に触れることができたこと。また, 小笠原流礼法の授業も再開し, 改めて人を大切にするための所作について学ぶ機会が設けられたことも大きな要因の一つであると考えられる。保護者評価においても、『②行事や活動に粘り強く取り組む(前期比 1%増 98%)』『⑥思いやりや豊かな心の育成(前期比 1%増 96%)』といずれも高い評価を得た。

その他, 自己評価の『①居場所のある学年・学級づくり(前期比 4%減 96%)』『②いじめや不登校への取組(前期比増減なし 100%)』『④異年令活動への指導助言(前期評価 5%増 81%)』, 保護者評価の『⑤心の居場所がある(前期比増減なし 95%)』の結果から, いじめ防止へのきめ細かな対応や, 好ましい学級・学年集団・異年令集団作りを通して, 子どもたちが自分の存在価値を自覚し, 集団の中で力を発揮できるよう指導を行ってきたことが評価されていることがわかる。

一方で, 課題となることが自己評価の『⑤読書習慣の育成(前期比 14%減 76%)』である。本校では, 月曜日から水曜日に朝読書に取り組んでいる。15分間ほどの時間であるが, 読書に親しむ時間を確保している。しかし現状, この時間の過ごし方が学校全体できちんと統一されていない状況もある。また, 図書室が活用できる時間が各学級に割り振られているが, 学級ごとの授業進度によっては, 活用しきれないケースもある。本校の図書室の蔵書は大変充実しており, 毎年, 教育振興会費やPTA会費を活用させていただき新書購入を行うなど, 環境は整っているため, **朝の読書時間の充実, 読み聞かせ等による読書への興味喚起, 読書を日々の学習活動の一環として習慣化する等の取組を**実践していきたい。

(3) 「健やかな体」について

自己評価では, 『②健康について理解と生活習慣の形成(前期比 5%増 100%)』と全職員が肯定的評価をした。新型コロナウイルス感染症対策として, 新しい生活様式が定着したこと, また保護者アンケートの『⑫早寝早起き朝ごはんに取り組んでいる(前期比増減なし 94%)』の通り, 家庭での協力もいただきながら食事や睡眠の大切さが浸透していることの表れであると考え。自己評価の『①運動が苦手な児童への達成を味わわせる指導や運動習慣の形成(前期比 4%減 86%)』も, 前期よりも微減したが評価は高かった。

一方で、保護者評価の中では『⑩安全を意識した登下校(前期比増減なし 93%)』『⑧教育活動に適した施設設備の整備(前期比増減なし 95%)』と、高評価になってはいるが、課題を寄せていただいている保護者の方もいる。特に登下校については、前期にも同様な御意見をいただいていることもあり、改善が進んでいない現状がある。授業時数の確保により集団下校が行えていなかったことで、きめ細かな指導が行き届かなかったことも一つの要因であると考え。3学期は、集団下校の回数を増やし、その都度登下校の様子を把握するとともに、登校班長の自覚を促したり安全指導を重ねて行ったりしていきたい。

保護者コメント

△学校のトイレの改修を希望します。汚い、臭い…と訴えを聞きます。トイレも我慢しています。早急に対応をお願いします。

●対策

毎回指摘される場所です。臭いについては昨年度末に排管の交換工事を行ったことで大幅に改善されています。ただ、校舎の老朽化に伴う大幅な改修工事はすぐにはできません。市当局への要望を継続して行っています。

△1年生の下校の時、同じコースでも一人ひとりでバラバラに帰ってしまうので、一人になる時間があり、不安です。(途中まで迎えに来ていますが・・・)

△朝、登校する時間帯、集団下校の日、毎日とは言いませんが先生方の見守りが必要に感じられます。特に一番上の6年生。もちろん、きちんと役割をしている子もいます。しかし、中には歩道でなく道路の真ん中でふざけながら走ったりしている子もいます。見かけるたびに注意していますが、無視するどころか悪態をつかれることもあります。下の子たちには「6年生の近くを歩かないように。」と言うときも正直あります。6年生の本人たちはふざけているつもりでも、ランドセルを投げて下校したり急にケンカしだしたり。下級生には見てほしくない、真似してほしくないことばかりです。注意しても気に止まらない、下級生の保護者からすると怖いことばかりで不安です。

●対策

常日頃より見守り活動を行っていただき、心より感謝致します。登校班長も含めた児童指導については、今後も継続して行っています。集団下校時には、定期的に教師が付き添いながら指導をしていきたいと考えています。複数下校も同様ですが、集団で帰宅することの意義を児童に伝えながら、自分の安全は自分で守るという意識を育てていきたいと思っております。今後もお気づきの点がありましたら、学校にお知らせいただきたいと思います。

(4)「グローバルに活躍する人材」について

自己評価『②外国語を通じた表現や理解の喜び，異文化と共生しようとする態度(前期比 20%増 100%)』『③自ら学び，協働する教育課程の工夫(前期比 10%増 95%)』の結果に向上が見られた。コロナ禍であっても，外国語の授業の中に表現しあう活動を効果的に取り入れたり，主体的・対話的で深い学びを具現化する授業の実践に取り組んできたりしたことへの評価であると考え。関連する保護者評価でも，『②仲間と協力し，行事や活動に粘り強く取り組んでいる(前期比 1%増 98%)』と高い評価を得ている。

「グローバルに活躍する人材の育成」の取組の一つとして，キャリア教育の推進がある。本校では今年度より，キャリア教育の取組として「キャリアパスポート」を作成している。これは，子ども達が小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる活動について記入し，記録を保管するポートフォリオであり，子どもたち自身が自己の成長を振り返り，将来への見通しを持つ手だてとすることで，キャリア発達を促していくものである。記録していく回数は限られているが，日常的な活動も含めて自己肯定感や自己有用感を向上させていく取組を継続して行っていく。

(5)「特別支援教育の推進」について

自己評価は，総じて高い結果となった。特に『①個別のニーズの把握と指導』と『②校内支援体制の効果的な運用』の肯定率がいずれも 100%であった。前期からの継続として，校内支援委員会の中で児童の情報交換を行ったり，日常的に支援体制の見直しを行ったりしたことで，一人一人の教育的ニーズにできるだけ対応できるよう取り組んできた成果であると考え。また，『③丁寧な保護者相談と連携指導(前期比 1%増 95%)』『④個人差を尊重しともに学びあう指導・学級づくり(前期比 5%減 95%)』と，いずれもその成果が評価されている。特別支援学級だけでなく，通常学級においてもその子の特性に応じた支援が必要となる児童もいる一方で，職員の支援体制にも限界はあるが，今後も教職員間の情報共有を密にしながら，より効果的な指導・支援にあたっていきたい。

保護者コメント

○子どものことを理解し、子供に合った対応をいただけているのでとても助かっています。子供の情報を連絡してくれるので非常にありがたく、安心していきます。

(6)「保護者・地域との連携」について

自己評価における『①適切な情報発信による共通理解の確立とともに支え合う学校づくり(前期比5%増 95%)』,及び保護者評価における『⑦学校は情報発信を通して子どもの教育活動を伝えている(前期比増減なし 96%)』の結果から,学校と保護者との情報共有や連携は一定程度とれているものと考えられる。特にHPを活用した情報発信については,過去の保護者の評価の中でもさらなる充実を求める御意見が数件寄せられていたが,今回の評価の中ではその数が減少した。もちろんそのことだけで,情報発信が充分であるとの判断はできないが,今後も継続して適切な発信をすることで,連携を深めていきたい。

またPTA活動に関する評価では,自己評価『②PTA活動を通じた保護者との協力関係の構築(前期比10%増 96%)』,保護者評価は『⑨学校開放に努め,保護者と連携している(前期は未回答 95%)』であった。今年度は授業参観も未実施(2月に実施予定)であったが,連絡帳や電話での対応,教育相談や個別懇談等,保護者との相談体制が取れるよう,できる範囲の中で取り組んできたことが評価されたのではないかと考える。また保護者評価『⑭PTA活動に進んで参加している(前期は未回答 82%)』に関しては,主だったPTA活動が軒並み中止や縮小となった今年度については,評価に対する判断が難しいところである。今後しばらくはコロナ禍での対応を迫られていくことになるが,形を工夫しながらのPTA活動実施を考えていきたい。

保護者コメント

△本年度は授業参観などが中止だったので,子供たちの学校での様子をできればたくさん提供していただけたらと思います。普段の学校の様子なども写真や動画で知れたらうれしいです。

●対策

学年ごとの行事や学習の様子につきましては,学年ごとのお便りで発信させていただいています。また,全校的な取組については,HP上にその都度掲載させていただいています。紙面にも限りがあるので全てをお伝えすることは難しいかもしれませんが,今後も引き続き子どもたちの様子を発信できるよう努めていきたいと思います。

△仕事の都合上,12月に翌年の休みを決めているので,早めに来年度の行事などわかると助かります。なるべく学校の行事には参加したいと思っているので,よろしくお願いします。

●対策

次年度の年間計画が確定するのは3月になってしまいます。確定しましたらHPに掲載しますので,そちらをご覧ください。

△PTA活動は、働く保護者も増えて負担が大きい。このご時世で密になる状況を減らすためにも廃止しても差し支えないのでは？と思う。

●対策

PTA活動の目的は「子どもの健全な育成のために協力して活動する」ことです。学校だけではできないことを、保護者の力をお借りしながら活動しています。学校にとっても子どもの成長にとってもプラスになるのと同時に、保護者同士のつながりもできます。PTA活動はいわゆるボランティアであり、御家庭の状況によっては役員の皆様には確かに御負担をかけることもあろうかと思いますが、今後も組織や活動内容を評価・改善しながら進めて参りたいと思いますので、ぜひ御理解と御協力をいただきたいと思います。

(7)その他の保護者コメント

○先生方の笑顔と元気に感謝の気持ちでいっぱいです。

○いつも先生方の子供たちに対する姿勢に感謝いたします。

○学校、先生方には日頃より感謝しております。ありがとうございます。これからも、ご指導よろしくお願い申し上げます。

△子ども達が楽しく送れる学校生活であればと思います。先生方ご自身の個々の評価や世間体の取り組みは避けていただきたいと思います。

△給食の牛乳が寒い時期になっても冷たく、腸が冷えておなかもいたくなるし、免疫力低下にもつながると思われます。何とかありませんか……。

△急用で学校に電話をかけさせていただきました。子どもに伝言をお願いしたのですが、子どもの名前を間違えて伝えられてしまいました。こちらでも名前をはっきりお伝えしたと思いますが、確認していただけると助かります。お相手のお子さんも困惑してしまうので徹底していただきたいです。

Ⅲ 終わりに

様々な御意見、御感想をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。要望等については、今後の検討課題とさせていただきます。また、学校の不手際等については、職員で共有しながら防止に努めていきたいと思ひます。

3学期は短いですが、次年度につなげられるよう課題の克服に向けて取り組んでいきたいと思ひますので、今後とも御理解と御協力の程、よろしくお願ひいたします。